

令和2年度の年度計画業務実績に係る新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた項目 参考資料⑦〈当日配付〉

大項目-No.	令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	3	<p>フィールドワークとグループ・ワークを行う「地域社会学」、市が有する高齢化に関するデータを統計的に分析し、グループ・ワークで解決策を考える「社会統計学」、スモール・グループ・ディスカッションを活用した「薬学倫理」等、アクティブ・ラーニングの実施率は10.7%となった。また、新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインによる双方向学習を可能とする Learning Management System (LMS: 学習管理システム) の授業での活用を促進し、授業におけるLMS利用率は71.9%となった。【a】</p>	<p>アクティブ・ラーニングの実施率が目標に達していない。 15.0%⇒10.7% 【未達成】</p> <p>LMSを効果的に活用 (LMS利用率71.9%) し、質の高い教育・向上のための取組を行った。 【+α】</p>	<p>教育の質的な転換を図るため、能動的な学修力の育成に効果的な教育手法であるアクティブ・ラーニングの実施に取り組み、実施率15%以上の目標を掲げていたが、目標を下回る10.7%の実施率となっている。アクティブ・ラーニングの重要性を認識し、アクティブ・ラーニングの実施率の向上に向けて取り組まれることを期待する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、オンラインによる双方向学習を可能とする学習管理システム (LMS) を活用し、授業におけるLMS利用率71.9%となっている。ウイズ・コロナの時代においても、質の高い教育の確保・向上のため、LMSの効果的な活用に取り組まれることを期待する。【期待】 【コロナ】</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	4	企業が抱える技術的課題を学生がグループで把握・分析し、対策創出・提案を行う問題発見解決型学習（PBL：Problem-based Learning）「地域技術学」を充実し、課題を発見し解決できる能力を有する人材を育成する。（問題発見課題解決授業（PBL型授業）の開講年1科目以上）	「地域技術学」では、市内を中心とする企業8社から技術的課題の提供をいただき、オンライン授業と対面授業の複合型で実施した。また、学生が、大学リーグやまぐち主催「令和2年度PBL実践報告会」に参加し、「市内企業の課題解決策に関する検討」をテーマに学習成果の発表を行った。 【a】	オンラインでの授業を活用し、対面授業との複合型で、PBL型授業「地域技術学」を実施した。 【達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「地域技術学」をオンラインと対面授業の複合型で実施した。 【コロナ】
I	6	TOEIC対策講座を開講し、TOEICを利用することにより英語運用能力の向上を図る。（TOEIC対策講座の開講クラス数年2クラス以上）	長年海外での勤務経験がある講師を招聘し、TOEIC講座をレベルに合わせた2クラスをオンラインにより開講した。 【a】	オンラインを活用し、TOEIC講座を目標の年2講座開講した。 【達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中、海外での勤務経験がある講師を招聘し、TOEIC講座をオンラインにより開催し、英語教育の強化に取り組んでいる。 【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	8	英語力診断テスト VELC (Visualizing English Language Competency Test) を利用し、学生のコミュニケーション能力の測定と、本学の英語教育の学習成果を客観的に測定する。(VELCの実施回数年4回以上)	新型コロナウイルス感染予防のため、VELCの実施を取りやめたが、教育後援会の支援により大学院生が TOEIC を受験した際に受験料の補助を行った。また、英語運用能力の底上げを図るため、専任のネイティブ教員の採用を行い、令和3年4月1日に就任することとした。【b】	VELCの実施を取りやめた。 年4回以上 ⇒0回 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中、TOEIC受験料の支援を行い、英語教育の強化に取り組んでいる。また、英語運用能力の底上げを図るため、令和3年度から専任のネイティブ教員を採用することとしている。グローバル化が進む中、世界で活躍できる人材を育成するため、英語力の向上・国際感覚の醸成に努めていただきたい。【期待】【コロナ】
I	9	工学部の外国人留学生入試の入学定員を現在の若干名から定員を設定するとともに、入学者選抜の方法の見直しを図り、優秀な留学生を確保するための計画を作成する。(日本語学校対象外国人留学生入試説明会の実施回数年1回以上)	昨年度までは外国人留学生入試を2月としていたが、本年度から優秀な学生を早期に確保するため試験日程を10月に変更したが、新型コロナウイルス感染症により海外からの入国が実質的に不可能となった。【b】	入学者選抜の方法の見直しを図り試験日程を変更した。 【達成】 日本語学校対象外国人留学生入試説明会を中止した。 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、外国人留学生入試を実施できなかったが、優秀な学生を早期に確保するため試験日程を変更した。【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	10	<p>海外留学における経済的支援として、経済的理由により修学が困難であり、かつ、学業成績が良好であると認められる学生に10万円を上限に給付を行う。(海外留学奨学金説明会の実施回数1回以上)</p>	<p>山陽小野田市立山口東京理科大学修学支援事業基金により、学部又は大学院修士課程に在籍する学生のうち、経済的理由により修学が困難であり、かつ、学業成績が良好であると認められる学生を対象に、海外留学における経済的支援として10万円を上限に給付を行う事業を実施した。また、オンライン開催される海外の学会に学生も参加できるよう、参加費の補助を行った。【a】</p>	<p>海外留学における経済的支援を行った。</p> <p>【達成】 オンラインで開催される海外の学会の参加費を補助した。</p> <p>【+α】 海外留学奨学金説明会を中止した。</p> <p>【未達成】</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中、海外留学における経済的支援やオンライン開催される海外の学会への参加費の補助等を行い、英語教育の強化及び国際感覚を備えた人材の養成に取り組んでいる。</p> <p>【コロナ】</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	11	<p>教育の内容及び方法の改善を図るための教員の組織的な研修（FD研修）を開催する。（FD研修の実施回数年2回以上）</p>	<p>教員の組織的な研修を次のとおり開催した。【a】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会における実践的経営実務について」10月13日 ・「Times Higher Education 世界大学ランキングとその活用」11月5日 ・「これからの産学連携研究開発植物化学の原点に学ぶエッセンシャルオイル・テルペンの無限の可能性」12月10日 ・「遺伝子組換え実験等安全講習」3月12日 ・「X線・放射線従事者教育訓練」オンライン講習 ・「動物実験の実践倫理について」オンライン講習 	<p>教員の教育力向上を図るため、オンラインを活用したFD研修を、目標の年2回を上回る年6回実施した。</p> <p>【達成】</p>	<p>教員の組織的な研修（FD研修）の開催に積極的に取り組み、目標の「実施回数年2回」を大幅に上回る年6回（オンライン講習2回を含む。）開催し、教員の教育能力向上に努めている。【特筆】【コロナ】</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	13	入学試験実施要項、入試問題作成要項、入試問題点検要項、採点要項を作成し適切に実施・点検を行う。 (問題訂正の発生件数0件)	学校推薦型選抜の学力試験において問題訂正は発生しなかった。なお、一般選抜の個別学力試験は新型コロナウイルスの感染予防のため中止とし、大学入学共通テストの結果で合否判定を行った。【a】	一般選抜の個別学力試験を中止した。 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一般選抜の個別学力試験が実施できず、大学入試共通テストの結果での合否判定を行った。【コロナ】
I	17	学生の保証人に対し大学教育への理解を深めていただくために、保証人懇談会を実施する。(保証人懇談会の実施回数年1回以上)	新型コロナウイルス感染予防のため、大学に保証人を招いての懇談会の開催が難しいため、大学説明はオンデマンド配信により行い、教員と保証人との個別相談は電話により実施した。保証人からのアンケート回答結果は概ね良好であった。また「保証人のための就職活動サポートブック」を作成し、保証人懇談会ではPDF版を公開し、年度末に次年度2・3年生の保証人に冊子版を郵送した。【a】	大学説明はオンデマンド配信、保証人との個別相談は電話により実施した。 【達成】 「保証人のための就職活動サポートブック」を作成した。 【+α】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、保証人を招いての懇談会をオンデマンド配信で、教員と保証人との個別相談を電話で行った。【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	18	学生の主体的な課外活動に対して財政的な支援をしている教育後援会に対し、学友会による活動報告会を実施する。(学友会活動報告会の実施回数年1回以上)	保証人懇談会に合わせ、助成を受けている竜王祭実行委員会より活動報告を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のため学園祭(竜王祭)が中止となり、代替方法として教育後援会役員会において活動報告を行った。また、教育後援会から、学生への学生食堂の無料開放の支援をいただき、大学から実施報告を行った。【b】	学友会による活動報告を教育後援会役員会において行った。 【達成】 学生食堂の無料開放の支援を行った。 【+α】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響から計画どおりの実施が困難な状況となったが、教育後援会と連携し、学生食堂の無料開放を行っている。今後もきめ細かい学生支援に取り組んでいきたい。【コロナ】
I	19	学生及び留学生に対して、先輩学生が個別学習支援を行う「ピアサポート」を実施する。(ピアサポートの開催回数週3回以上)	本年度は新型コロナウイルス感染予防のため、学生による個別学習支援は中止としたが、授業で分からなかった箇所がある学生に対し、助教の教員がオンラインにより個別学習支援を行う「オンラインによる学習サポート教室」を行った。【b】	先輩学生の個別学習支援を中止した。 週3回以上 ⇒0回 【未達成】 助教が「オンラインによる学習サポート教室」を行った。 【+α】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響から計画どおりの実施が困難な状況となったが、オンラインを活用した個別学習支援を実施し、学習サポートの充実に取り組んでいる。今後もきめ細かい学生支援に取り組んでいきたい。【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	20	授業で分からなかった箇所がある学生に対し、助教の教員が個別学習支援を行う「学習サポート教室」を実施する。(学習サポート教室の開催回数週1回以上)	新型コロナウイルス感染予防のため、学習サポート教室を対面ではなくオンラインにより開催し、対面での授業が可能となった段階で対面による学習サポート教室を再開し、オンラインと対面の併用により実施することで利用者を増やす取り組みを行った。 【a】	「学習サポート教室」を対面とオンラインの複合型で行った。 【達成】 学習サポート教室は、前期(年間を4期に分けた場合の2期)からオンラインで実施。後期についてはオンライン、対面のハイブリッドで実施した。 【達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学習サポート教室をオンラインと対面を併用した形で実施し、利用者の増加に取り組んだ。【コロナ】
I	22	山陽小野田市及び近郊の産業や地元企業の魅力について学生の理解を深めるため、市内の主要な企業を巡る市内企業見学会、市内企業インターンシップを実施する。(市内企業見学会の実施回数年1回以上)	インターンシップ制度の目的・意義等についてガイダンスを行い、インターンシップへの理解及び参加の促進を図り、延べ約350名の学生が参加した。新型コロナウイルス感染対策による夏季休暇期間の大幅な短縮にも関わらず、夏のインターンシップに17名(うち市内企業等3名)に参加し、秋・冬・春のインターンシップに17名(うち市内企業等7名)が参加した。 【a】	市内企業へのインターンシップを実施した。 【達成】 市内の主要な企業を巡る市内企業見学会を中止した。 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、夏季休暇期間が大幅な短縮となったが、学生に市内企業の魅力を知ってもらうため、市内企業と連携し、市内企業へのインターンシップを実施している。【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
I	25	<p>公務員採用試験対策講座を開講し、公務員採用に向けた学内説明会を開催するとともに、公務員試験合格率の向上を図る。(公務員採用試験対策講座の実施回数 年1回以上)</p>	<p>本年度はオンラインによる実施とし、3年生クラスに29名、2年生クラスに27名が受講した。また、7名が公務員試験に合格し、7名が公立学校の教員採用試験に合格した。</p> <p>【a】</p>	<p>公務員採用試験対策講座をオンラインで開講した。</p> <p>【達成】</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの実施となったが、公務員採用試験対策講座を開講し、公務員試験の合格率の向上に取り組まれ、高い合格率を達成している。</p> <p>【特筆】【コロナ】</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
II	34	<p>地域連携センターにおいて、あらゆる年代の方を対象とした「市民のためのオープンキャンパス」を実施する。（市民のためのオープンキャンパスの実施回数年1回以上）</p>	<p>本年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止となったが、地域連携センター運営委員会において各委員から意見を聴取し、令和3年度の開催に向けた準備を進めた。 【b】</p>	<p>「市民のためのオープンキャンパス」を中止した。 年1回以上 ⇒0回 【未達成】</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、令和3年度の事業実施に向けて準備を進めている。【コロナ】</p>
II	35	<p>山陽小野田市と連携し、疾患予防・健康増進に関する健康に関する市民講座を開催し、市民の健康寿命の延伸に貢献する。（市民講座の実施回数年1回以上）</p>	<p>WEB開催となった山陽小野田市のSOS（SanyoOnodaStation）健康フェスタに、本学の教員による健康に係る2本の動画（「正しい手洗いの方法」、「身近な生薬について」）を投稿し参画した。 また、11月からのスマイルエイジング強化月間に参画し、山陽小野田薬剤師会とタイアップした新型コロナウイルス感染症に係るチラシやポスターを作成した。チラシ・ポスターは、市内の薬局等を通じ広く配布された。なお、ポスターは本学の学生が新型コロナウイルス感染予防等に係るデザインを作成した。【a】</p>	<p>市民講座を中止した。 【未達成】 SOS健康フェスタへの動画投稿し、参画。山陽小野田薬剤師会とタイアップし、チラシとポスターを作成した。 【+α】</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、感染拡大防止対策を講じる中で、関係機関・団体と連携し、事業を実施している。【コロナ】</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
Ⅱ	36	市民を対象に、科学にまつわる身近な話題を提供する「サイエンス・カフェ」を開催し、教育・研究と地域貢献が一体化した生涯教育の充実を図る。(サイエンス・カフェの実施回数年6回以上)	山陽小野田市立中央図書館と連携してサイエンス・カフェを実施した。当初年6回実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、5・6月が中止となったため、年4回(8・10・12・2月)実施した。【a】	サイエンス・カフェの実施回数が目標を下回った。 6回⇒4回 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施回数の削減等、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、感染拡大防止対策を講じる中で、事業を実施している。 【コロナ】
Ⅱ	37	県内を中心とする中学・高校の理科教員を対象に、理科の授業に役立つ実践的なプログラムを提供する「理科教員のためのリカレントセミナー」を開催する。(理科教員のためのリカレントセミナーの実施回数年1回以上)	本年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止となったが、地域連携センター運営委員会において各委員から意見を聴取し、令和3年度の開催に向けた準備を進めた。 【a】	教員のためのリカレントセミナーを中止した。 年1回以上 ⇒0回 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、令和3年度の事業実施に向けて準備を進めている。 【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
II	38	技術相談会、研究室公開、情報交換会等を開催し、大学の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを支援する。(研究・技術公開の実施回数年1回以上)	大学の研究シーズを広く知っていただくため研究シーズ集2020-2021を作成した。また、WEB開催となったイノベーションジャパンに本学教員の研究を1点出展した。技術相談会、研究室公開は、新型コロナウイルス感染予防のため中止となったが、地域連携センター運営委員会において各委員の意見を聴取し、令和3年度開催に向けた準備を進めた。【b】	技術相談会・研究室公開を中止した。 年1回以上 ⇒0回 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、令和3年度の事業実施に向けて準備を進めている。【コロナ】
II	42	大学の授業を一般市民に開放する「大学開放授業」を開講し、市民が生涯にわたって行う学習活動を行う場として大学を開放する。(大学開放授業の開講数年10科目以上)	新型コロナウイルス感染予防のため学内における大学開放授業は中止となったが、本学の教員が山陽小野田市立図書館に出張し、科学や薬学にまつわる身近な話題を紹介するサイエンス・カフェを年4回開催した。【b】	大学開放授業を中止した。 年10科目以上 ⇒0科目 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、感染拡大防止対策を講じる中で、市民への大学開放に関する事業を実施している。【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
II	48	山口県インターンシップ推進協議会との連携を強化し、県内企業インターンシップの参加率を高める。(卒業者に占める県内就職者の割合30%以上)	新型コロナウイルス感染予防のため、インターンシップへの参加者は述べ34名(うち市内企業等10名)と例年と比べて少ない結果となったが、就職者に占める県内就職者の割合は41.9%となった。 【a】	<p>県内企業インターンシップの参加率は、例年を下回った。</p> <p>【未達成】 県内就職者の割合は、目標を大きく上回った。 30%⇒39.1%</p> <p>【達成】 ※41.9%は、就職決定者数129人に占める県内就職者数54人で算出。</p>	<p>インターンシップへの参加者は減少したが、卒業者に占める県内就職者の割合は増えている。引き続き関係機関と連携し、県内就職者を増やす取組を積極的に展開されることを期待する。【期待】【コロナ】</p> <p>※令和2年度の卒業者に占める県内就職者の実績</p> <p>学部卒業生数：182人 うち進学者数：44人 県内就職者数：54人 県内就職者の割合：39.1% 県内就職者数÷(卒業生数-進学者数)×100 =54÷(182-44)×100</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
Ⅲ	54	オープンキャンパス、進学相談会、高校訪問、メディア等による広報活動を推進し、前年度を上回る志願者を獲得する。(高校生対象オープンキャンパスの実施回数年1回以上)	新型コロナウイルス感染予防のため、来場型のオープンキャンパスではなく、8月上旬にオンラインを活用したオープンキャンパスを開催し、全国から555名の参加申込みがあった。高校訪問については新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小し、山口県内の学校推薦型選抜合格高校を訪問し入学前教育の説明を行った。【a】	志願者数は前年度を下回った。 3,186人 ⇒2,339人 【未達成】 オンラインを活用して高校生対象のオープンキャンパスを実施した。 【達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、オンラインでの実施や感染拡大防止対策を講じる中での県内高校へ訪問を行い、事業目的の達成に向けて取り組んでいる。【コロナ】
Ⅲ	56	山陽小野田市内の小・中学校対象の「ほんものの科学体験講座」、「小学生が学ぶ医薬品教室」等を実施する。(ほんものの科学体験講座の実施回数年20回以上)	本年度は新型コロナウイルス感染予防のため中止となったが、地域連携センター運営委員会において各委員の意見を聴取し、令和3年度開催に向けた準備を進めた。【a】	「ほんものの科学体験講座」を中止した。 年20回以上 ⇒0回 【未達成】 「小学生が学ぶ医薬品教室」を中止した。 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、令和3年度の事業実施に向けて準備を進めている。【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
Ⅲ	57	山陽小野田市教育委員会と連携し、教職課程履修学生が市内の小・中学校へ理科授業の準備、実験、個別指導を補助するスクールボランティアを派遣する。(スクールボランティアの派遣校数年2校以上)	本年度は新型コロナウイルス感染予防のため活動は一旦休止となったが、令和3年度以降に活動が可能になった時、迅速に対応できるよう学内での学生による活動を再開し準備を進めた。【a】	スクールボランティアの派遣を中止した。 年2校以上 ⇒0校 【未達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、令和3年度の事業実施に向けて準備を進めている。【コロナ】
Ⅲ	61	中国・四国地区の公立大学と大学運営及び教育研究に関する勉強会及び情報交換を実施する。また、公立大学法人等運営事務研究会、公立大学協会薬学部会に参加し実務的な課題解決に向けた連携を推進する。	中国・四国地区の公立大学総会、公立大学法人等運営事務研究会等にオンラインにより参加し、本学の現状報告と意見交換を行った。【a】	オンラインを活用して中国・四国地区の公立大学総会、公立大学法人等運営事務研究会等実施した。 【達成】	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計画どおりに事業を実施することが困難な状況となったが、オンラインでの実施により参加し、関係団体との連携に取り組んでいる。 【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
Ⅲ	65	<p>科学研究費補助金の申請説明会を開催し、科研費応募資格保有者による科学研究費補助金の申請率と採択率の増加を目指す。(科学研究費補助金の申請率が科研費応募資格保有者の75%以上)</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防のため、本年度の科学研究費補助金に係る説明会は、新たな取組として動画配信による説明会を導入し、科研費申請に向けたポイントなどについての情報提供を行った。この結果、科研費応募資格保有者の申請率は74.3%、科研費獲得額は71,578千円と、昨年度42,846千円に対し約1.7倍に増加した。【a】</p>	<p>科学研究費補助金の申請率は僅かに目標を下回った。 75.0%⇒74.3% 【未達成】 科学研究費補助金の採択率 17.1% ⇒14.8% 【未達成】 科学研究費補助金の獲得額は前年度の1.7倍と大幅に増加した。 【+α】 ※採択率が下がった理由：令和元年度の採択数が多く研究者が研究期間が終わるまで応募ができないため。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、科学研究費補助金の申請説明会を動画配信という新たな取組により実施した。科学研究費補助金の申請率は科研費応募資格保有者の74.3%と目標の75%を僅かに下回ったが、ほぼ達成している。また、科研費獲得額71,578千円は前年度(42,846千円)の1.7倍と大幅に増加しており、今後も引き続き、教育研究活動の活性化及び教員の意識向上を図り、外部研究費の獲得に向けて積極的に取り組まれることを期待する。【期待】 【コロナ】</p>

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
IV	71	外部資金及び競争的資金獲得に向けた研修会を開催する。(外部資金及び競争的資金獲得に向けた研修会の実施回数年1回以上)	外部資金等に係る募集情報を掲示板等で随時提供するとともに、応募テーマと研究テーマが近い教員へは個別情報提供を行うなど支援強化を図った。また、生命・医学系研究に携わる研究者を対象に、e-Learningによる生命・医学系研究の倫理及び臨床研究の基礎知識講座の研修を実施した。【a】	外部資金及び競争的資金獲得に向けた研修会を中止した。 ただし、代替措置として、外部資金及び競争的資金獲得に向けた研修会を年度中視聴できる動画配信により提供した。 年1回以上 ⇒0回 【未達成】 生命・医学系研究の倫理及び臨床研究の基礎知識講座の研修をe-Learningにより実施した。 【+α】	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外部資金及び競争的資金獲得に向けた研修会を開催できなかったが、年度中視聴できる動画配信を提供する代替措置を行った。さらに、募集情報を掲示板等で随時提供するとともに、教員への個別情報提供を行う等、外部資金及び競争的資金獲得に向けて積極的に取り組んでいる。【特筆】【コロナ】

大項目-No.		令和2年度の年度計画	年度計画の実施状況等	コロナの影響	評価委員会の意見等
VI	79	<p>薬品管理システムを適切に運用し、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）の遵守に努める。（高圧ガス・液化ガス利用者安全講習会の実施回数年1回以上、放射線・X線実務者訓練の実施回数年1回以上）</p>	<p>薬品の薬品管理システムの登録・管理を適切に行い、高圧ガスについても薬品管理システムに登録を行う準備を進めた。X線・放射線従事者教育訓練をオンラインにより6月9日から7月31日の期間行った。</p> <p>また、大学の教育研究活動が環境に与える影響を認識し、この影響を最小限にするための環境負荷の低減に向けた活動を推進するために、SDGsへの取り組みを含めた「環境報告書」を作成しホームページにより公表した。【a】</p>	<p>高圧ガス・液化ガス利用者安全講習会を中止した。</p> <p>年1回以上 ⇒0回</p> <p>【未達成】</p> <p>オンラインを活用した放射線・X線実務者訓練を実施した。</p> <p>【達成】</p>	<p>薬品管理システムを適切に運用した薬品管理の徹底、新型コロナウイルス感染症拡大の中におけるX線・放射線従事者教育訓練のオンラインでの実施、SDGsへの取り組みを含めた「環境報告書」の作成等、安全衛生管理体制の確保、学生や教職員の健康保全及び安全衛生に努めている。</p> <p>【特筆】【コロナ】</p>
VI	81	<p>利益相反、営業秘密情報、安全保障輸出管理などのリスクマネジメント組織を整備する。</p>	<p>リスク管理委員会のもとに、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し感染予防対策を行い、安全保障輸出管理に関する事務研修を12月に実施した。また、利益相反ポリシー及び利益相反マネジメント実施要綱に基づき教職員を対象に自己申告アンケートを実施した。そのほか、健康情報等取扱要項を制定し、健康情報等が適切に取り扱われる仕組みを構築した。【a】</p>	<p>リスク管理委員会のもとに、新型コロナウイルス感染症対策本部の設置や安全保障輸出管理に関する事務研修会等を実施した。</p> <p>【達成】</p>	<p>新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、リスク管理に迅速に取り組んでいる。【特筆】【コロナ】</p>